

維持透析患者において透析歴と認知症は関連するか？

長崎腎病院

白井美千代 丸山祐子 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越 哲

【背景】

本学会統計調査を始め、透析歴が長くなると認知症有病率は減るという奇異なデータについては、長期に生存可能な患者は結果的に認知症が少ないという「生き残り効果」との説がある。

【目的・方法】

当院の非糖尿病症例において、認知機能検査 (mini-mental state examination ; MMSE) を施行し得た 58 名にて、MMSE と透析歴を含む各因子の関連を検討した。

【結果】

当院での解析でも MMSE と透析歴に正の相関がみられた。MMSE と年齢は弱い負の相関がみられたが、MMSE・透析歴・年齢の 3 因子で相関をみたところ、MMSE は透析歴により強い影響を受けていた。この他に MMSE はアルブミン値やトランスフェリンとも正の相関を示す傾向にあった。

【考察】

今回の検討では「生き残り効果」の検証はできなかったものの、透析患者の認知症に与える因子は患者の全身状態や治療など複雑であり、今後も検討を続ける。